

立ち読み版

連載 インタビュー

Umano! #13



アース・キッズ株式会社 代表

たかみ ゆういち

高見 裕一 さん

1956年、神戸市生まれ。中学卒業後、ヒッチハイクの旅で九州を訪れ、水保と出会い、環境問題に強く関心を持つ。大学在学中に「関西リサイクル運動市民の会」を設立、全国規模の活動として発展させ、「日本リサイクル運動市民の会」を旗揚げし、日本初のフリーマーケットを開催。1987年、有機野菜の宅配事業「らでいっしょぼーや」を設立し、国内最大のオーガニック流通システムに育て上げる。1993年、衆議院議員選挙に立候補して当選し、環境問題やNPOに係る議員立法に奔走。退任後はモンゴル国立人文大学の理事長や、日本ユネスコ協会連盟の理事に就任。現在、アース・キッズ株式会社代表。

【写真】 田中和弘

環境問題に挑み続ける 「元祖・社会起業家」

HARA'S BEFORE

有機栽培の野菜を宅配でサービスするという画期的なビジネス「らでいっしょぼーや」を立ち上げ、経営者として成功してきた高見さんは、衆議院議員も務めるなど多彩な経歴を持っている。現在は、発達に障害を持つ子供たちの療育システムをつくろうと、「アース・キッズ」という会社を運営している。日本における「元祖・社会起業家」と言える人だろう。

私は若者のキャリア支援にも携わってきたことから、高見さんの現在の事業にとっても関心がある。社会起業家としての軌跡を含め、尋ねてみた。

子供たちのためのソーシャルベンチャー

原：高見さんの多彩なキャリアのお話を楽しみにしてきました。まずは、現在の事業についてお聞かせください。

高見：私たちアース・キッズは児童発達支援、放課後等デイサービスを主体とした事業体で、発達障害を持つ子供たちの療育が仕事の柱です。

現在、発達障害児は増え続けています。文部科学省の2012年度の調査では、全国の公立小・中学校の通常学級の子供のうち、6.5%が発達障害児だと報告されています。発達障害とは、自閉症スペクトラム障害（ASD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）、学習障害（LD）の3つの総称です。こうした子供たちを早期に発見して療育することが、今は強く必要とされているんです。

私たちは「スタジオそら」と称して、都内に10カ所、神奈川県に2カ所、合計12カ所の障害児通所支援施設を開設しています。業界でも一番大きなところは上場して、就労支援をメインに総合的に取り組んでいますが、私どもはあくまでも発達障害児の支援と療育がメインです。私が引き継ぐまではスタジオは3カ所でしたが、4年くらいで現在の体制になりました。規模でいえば、業界の中堅どころでしょうか。

原：短期でそこまでのポジションに来られた、強みや特徴を教えてください。

高見：一つは、マンツーマンの療育をしているところですね。そこに魅力を感じてくださる親御さんが多い。マンツーマンで子供の成長に間近に寄り添えるというのは、社員にとってのやりがいにもつながっています。いわゆる預り型の施設の中には、子供たちに映像を3～4時間見せっぱなしにするようなところもあるようです。スタッフも少なく、2人で10人の子供を見る状態だったりします。それに対して、弊社ではマンツーマン、もしくは指導員2人に子供が1人ということもあります。50～90分と時間は短いけれども、子供の成長が確実に実感できるのが重要なポイントです。

商標登録を取っている「あおぞら療育」のような魅力的なコンテンツがあることも強みでしょう。普段は、なかなか自然の中で遊ぶ機会の少ない子供たちが、思いっきり体を動かしながら、四季折々の自然を体験し、のびのびと遊ぶ機会を作っています。自然に触れることを第一に考え、太陽の陽を浴びたり、風を感じたり、小さな虫や草木に触れることが、子供たちの心を開き育てていくのです。

スタジオを見ていただければわかりますが、サッカー・水泳・ダンススクールがあったりと、原宿スタジオだけでも7～8種類のコンテンツ

続きは雑誌で

株式会社クオリティ・オブ・ライフ代表取締役・高知大学客員教授・成城大学非常勤講師。中小企業診断士。早稲田大学法学部卒業後、大手メーカー、株式会社リクルートを経て、独立。産学公値に対し、採用・育成・人事制度構築など、人材関係の幅広い提案を行う。著書に「採用水戸期」（日本経済新聞出版社）、「優れた企業は日本流」（扶桑社）、「インタビューの教科書」（同友館）など多数。